

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第3回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成28年2月24日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時から午後3時20分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階会議室
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 小笠原総括主幹・葛城主幹
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教育長 佐々木健 教育部長 柴田幸博 文化財課長 三上敏彦 同課課長補佐 工藤雅人 同課埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 東海林心 同課主事 福原健 同課主事 工藤麻衣
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備計画について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）整備計画について

工藤委員長 : 当地域での凍結深度はどのくらいか。

事務局 : 50～60cm 前後。

工藤委員長 : 保護盛土は 30cm 前後とのことだが、凍結は大丈夫なのか。園路舗装等が浮き上がってきたりはしないか。

事務局 : 保護盛土については史跡への負荷をなるべく軽減するとの方向性から、影響のでない最低限のラインで設定している。

工藤委員長 : 説明板の基礎はどの程度か。

事務局 : 現基本図では 20cm 程度。形状が伏せ置きタイプなので、浮いてくることはないと思う。史跡堀越城跡では保護盛土は 40cm で実施している。当地方は降雪でパックされるので、凍結の影響は逆に少ないと思っている。

岡田副委員長 : 保護盛土は外部から搬入するのか。史跡内での採取はできないのか。

事務局 : 史跡内については遺構密度のみならず地形も重要な要素であり、掘削はしない方向。なお、史跡堀越城跡でも他工事での発生土を利用して、造成を行う地区があるが、土質の確保に難が生じている。基本的には良質な購入土で施工する方向で検討している。

岡田副委員長 : 盛土は植生へのインパクトが大きい。施工後、植生が戻るまで時間がかかる。三内丸山遺跡では 7～8 年かかっており、強制的に芝生も植えている。

事務局 : 在来種の吹付による表層緑化を実施し、緑化を早める方向で検討している。

岡田副委員長 : それなら良い。何もしないと外来種が入り込んでしまう可能性がある。

岩瀬委員 : 現状植生の調査では、外来種の進入は見られないと思う。

工藤委員長 : スロープは盛土が落ち着くまで崩落に気を付けてほしい。

事務局 : 盛土と舗装施工の年度を分け、落ち着かせる等、工程を検討したい。なお、現在の基本図はあくまでも概念図であり、今後現況に即して具体化を進めたい。

岡田副委員長：年次計画について、初期整備と本整備があると思うが、年度によって混在するということか。

事務局：公開活用も並行するので、初期整備期に記載している維持管理的な整備は並行することになる。

岡田副委員長：縄文時代の岩木山はもう少し高かったと思う。また、地軸の傾きも変化しているので、この通りの日没が見られたかはわからない。ただ、イメージとして使えるものは使ってPRしても良いのではないか。

工藤委員長：委員会として本案で概ね了承してよろしいか。

全委員：異議なし。

工藤委員長：それでは委員会として本整備計画案を了承する。製本は行うのか。

事務局：今年度末までに製本し、来年度関係機関等へ配布したい。

なお、参考資料として、関根委員より提案いただいた環状列石における土壌温度のモニタリングについて説明する。本提案は、保護盛土下にある環状列石の凍結劣化のリスクを判断するために行う土壌温度のモニタリングであり、一定期間ロガーを設置・観測する形となる。

事務局としては実施について前向きに検討している。平成29年度を目途に予算化し、経過観察を実施する予定。については、環状列石の整備計画に、本モニタリングの実施について書き込むことについて意見を伺いたい。

関根委員：本委員会でも議論されたが、環状列石の展示の在り方は各遺跡で異なっている状況にある。本遺跡でも埋め戻す保護層がどの程度なら、環状列石にとって劣化のリスクとならないか、まず観測する必要がある。昨年度、文化庁の調査官が来た際も、「地元の大学である弘前大学と色々と連携してみては？」とのアドバイスもされていた。来年度、当大学でも文化財保存科学を開講予定であり、本提案もその研究室に着任予定の教授より提案いただいた。

事務局：基本的には市単独事業となることから、平成29年度予算で措置して実施する方向となる。いずれにしろ、方法等で今後弘前大学とは協議したい。

岡田副委員長：弘前大学と連携して、研究の一環として大学負担で実施する手もあるのではないか。いずれ掘削を伴うので、史跡の現状変更申請は必要となるのでは。

県：史跡の現状変更申請は必要となる。

事務局 : それでは基本的には実施の方向で検討してよろしいか、お諮りしたい。

全委員 : 異議なし。

議題（２）その他

事務局より、来年度の事業計画について説明。

- ① ちびっこ縄文講座について
- ② 大森勝山遺跡公開活用イベント「大森勝山じょうもん祭り」について
- ③ 遺跡説明板・案内板等設置について
- ④ 史跡大森勝山遺跡整備事業について